

『病院広報誌“電車どおり” 発行 10年目』

総務課 道下 篤 主任

NEWS ◎病院広報誌

「電車どおり」を毎月欠かさず発行して十年目。 道下 篤さん

函館中央病院総務課主任

患

者や家族、地域住民とのコミュニケーションツールとして広報誌を発行している病院は多い。病院の理念や役割、様々な取り組みを理解してもらうためには広報活動は欠かせないが、その一つとして広報誌が果たす役割は大きなものがある。

函館中央病院(橋本友幸病院長)では平成17年に広報誌「電車どおり」を創刊、今年10年目を迎える。A3サイズの両面を用いた「電車どおり」は毎月発刊を続けてきた。今年2月の第114号では、産婦人科の藤本俊郎科長が女性ホルモンを分泌する内分泌臓器として重要な働きがある卵巣の機能低下や欠落後のホルモン補充療法についてわかりやすく解説。同ページでは看護部のマスコットキャラクター「中病ナースくん」の紹介。裏面では昨年11月に実施した「患者満足度調査」の結果を外来・入院別に報告している。

創刊当初から5年間広報誌を担当した総務課主任の道下篤さんは、

昨年7月から再び総務課勤務となった。「電車どおり」の編集者となった。同病院では医師や看護師、事務部門など10人のメンバーで平成17年に広報委員会を発足させ、広報誌や病院ホームページの作成などの役割を担ってきた。

「当時は患者さん向けの広報誌はなく、気軽に手に取って読んでもらえることを目標に編集をスタートさせました」と道下さんは話す。テーマは広報委員会で検討するが、これまでの特集では担当医による病気の解説や病棟・診療科



中央棟1階(正面玄関奥)の「図書情報コーナー」にて「電車どおり」の説明をする総務課主任の道下篤さん。

・部門、診断・治療機器の紹介、新しく赴任した医師のクローズアップ、病院で行っている公開講座の状況、「今月の笑顔」のコーナーでは新人職員を紹介してきた。テーマが決まると原稿を依頼し、集まった原稿から編集作業を開始するが、入力から誌面への割り付け、印刷まですべてを道下さんが一人で行っている。発刊は25日。中央棟1階(正面玄関奥)の「図書情報コーナー」にバックナンバーと一緒に配置、誰でも自由に持ち帰ることができる。

「最近写真を多く取り入れるなど、読みやすさと親しみやすさに工夫をしています」。発刊後の「電車どおり」は病院ホームページにも掲載している。「みなさんに役立つ情報を掲載しながら、今後も毎月の発刊を継続していきます。内容に関するご要望があれば積極的に取り入れますので、当院総務課までご連絡ください」。